

★学校の教育目標	・自ら考え、学びつづける人（主体性） ・協力し、全体につくす人（連帯性） ・心豊かで、思いやりのある人（人間性） ・進んで、心身をきたえる人（健康）	★重点計画の概要	学びの革新プロジェクト 学びに向かう力・人間性等についての指導・評価の一層の充実を図るとともに、非認知能力の測定を行い、人間性の向上を図る。 単元テストを実施し、3つの学力のバランスの取れた育成を図るとともに、指導目標・評価基準・評価方法を明確にして指導と評価の一体化を進め、生徒一人一人の学力の確実な定着を図る。
★目指す学校像（ビジョン）	【目指す生徒像】 基本的な生活習慣を身に付け、健康に生活しようとする生徒、挨拶ができ、思いやりをもって皆と感動しようとする生徒、自ら学び、問題を解決しようとする生徒、郷土を愛する心をもつ生徒		
	【目指す学校像】 屈託のない笑顔の見られる学校		
	【目指す教師像】 生徒の見本となる教員		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	体力向上	運動する機会を増加させ、生徒の体を育てる力の育成を図る。	・部活動の充実や運動する機会の増加を図り、生徒の積極的な運動への取組みを推進し、体を育てる力の向上を図る。	4 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員96.3% (+6.7)</b>	3 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒82.3% (+6.0) 保護者92.2% (+6.5)</b>	「体力を向上する取り組み」として、面談期間中に持久走イベントを開催するなど、生徒が自発的に運動する習慣作りに取り組んだ。次年度は参加人数が増加するように計画を立てる。	
	学びの革新	校内研究による授業改善の推進を図る。	・定期考査を単元毎のテストに改め、その都度、教員面接を行い指導目標や評価方法を明確にして指導力向上を図る。 ・授業改善推進拠点校として、指導と評価の一体化による授業改善を組織的に推進する取組を研究し、教員の授業力向上を図る。	4 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員92.5% (+6.7)</b>	1 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒83.9% (-2.6) 保護者88.0% (+10.3)</b>		授業改善推進拠点校としての取組によって、生徒の学習に対する自己調整力や粘り強さを実感する教員や保護者が増加した。一方で、授業がよくわかると感じる生徒の割合が減少傾向にあり、引き続き指導方法の改善による学力向上を目指す。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	豊かな人間性の育成	・生徒が協力して取り組み、感動する行事を実施し、所属感・連帯感を高める。	・運動会・合唱コンクール等の行事を、生徒が主体的に協力して感動するよう充実し、所属感・連帯感を高める。	3 3 2 1	3 3 2 1 <b>職員96.3% (-3.7)</b>	3 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒94.8% (+1.4) 保護者97.1% (+3.8)</b>	行事を中心に、生徒が協力しながら主体的な活動をする姿が見られた。参観した保護者からも、生徒の自主的な活動に対して肯定的な感想が出ており、中学生としての連帯感が見られる結果となった。今後は更に生徒の自己肯定感の向上を目指す。	
	豊かな人間性の育成	非認知能力（人間性）の測定を行い、人間性を高める。	・学期ごとに非認知能力（人間性）の測定を行い、振り返ることで自らの学習を調整するとともに、指導力の向上を図り、人間性の向上を図る。 ・人間性を高める重点行動を決めて、行動する。	4 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員92.3% (+10.2)</b>	4 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒93.3% (+4.1) 保護者87.3% (+7.9)</b>		Ai-glowの活用については、生徒が自分自身を振り返る機会づくりを行うことができたが、結果の分析等改善の余地があった。一方で、日常において教員から生徒への声掛けや指導によって、個人の人間の成長を感じることもできる生徒が増加した。
社会と未来に開き、みんなのできる	豊かな人間性の育成	地域の方との協働活動・関わりの活性化を図る。	・職業調べや報告会などにおいて、地域の方との意見交換を行い、望ましい社会性や勤労観・職業観を育む。 ・保護者と教員の交流の推進を行うとともに、ボランティア活動を推進し地域の一員としての誇りをもたせる。	4 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員92.6% (+9.9)</b>	3 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒80.9% (+4.0) 保護者80.6% (+6.1)</b>	1学年の日野市研究や2学年の職場体験等、地域の協力を得ながら充実した取組みができた。また事後の発表会において、関係事業所からの参観を得るなど、生徒が地域とのつながりを感じる場面を多く作ることができた。	
	豊かな人間性の育成	地域の方との協働活動・関わりの活性化を図る。	・学校危機管理マニュアルを精査するとともに、避難訓練を工夫して、自分のことを守る力を育成する。また、地域の方と連携した防災訓練を企画し、地域の方を助ける力を育成する。	2 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員92.5% (-0.6)</b>	3 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒92.5% (+3.9) 保護者91.0% (+2.6)</b>		安全指導等による啓発活動は充実したが、避難訓練における地域連携には至らなかった。次年度は災害時の地域の中での中学生の役割等、自助・共助の意識づくりの機会を更につくり、危機管理に努める。
安全・安心	安全・安心の推進	不登校傾向等のある生徒等に対し、個に応じた支援を充実させる。	・特別支援教育コーディネーターを中心に学校相談委員会を毎週開催し、教室に入れない生徒等に対して登校支援教室やほっとルームを充実させる。 ・ステップ教室・リソース教室を活用した別室学習支援や保健室・スクールカウンセラーの相談などの個別指導を充実させる。 ・わかば教室、エール及びスクールソーシャルワーカーなどと連携し、支援体制を充実させる。	3 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員96.2% (+3.1)</b>	2 2 2 1	4 3 2 1 <b>生徒84.2% (+1.2) 保護者85.9% (+8.2)</b>	校内委員会を毎週開催することで、各生徒の状況を把握し、対応を協議することができた。一方で生徒の多様化に応じた人員配置ができない現状もあり、個別の対応が十分とは言えない面もあり、課題が残る結果となった。	
	安全・安心の推進	いじめの防止・早期発見・早期解決を図る。	・学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの防止・早期発見・早期解決を図るとともに、生徒自らが、いじめを絶対に許さない環境を醸成する活動を推進する。	4 3 2 1	4 3 2 1 <b>職員96.3% (-3.7)</b>	2 3 2 1	4 3 2 1 <b>生徒87.2% (+1.6) 保護者78.1% (+5.2)</b>		毎月生活アンケートを実施するなど、生徒からのSOSや人間関係の把握等を組織的に行った。一方でいじめ重大事態が1件発生するなど、いじめの未然防止への方策について、学校いじめ対策委員会を中心に協議していく必要がある。

別紙に記載

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。